

水の総合運用のしくみ～相模川水系の利水ネットワーク～

城山ダムは、宮ヶ瀬ダムよりも流域面積が約1.2倍大きい（ダムに水が貯まりやすい）一方で、相模ダムと城山ダムの合計容量は、宮ヶ瀬ダムの約1/2倍の容量（貯留できない水は河川へ放流）となっています

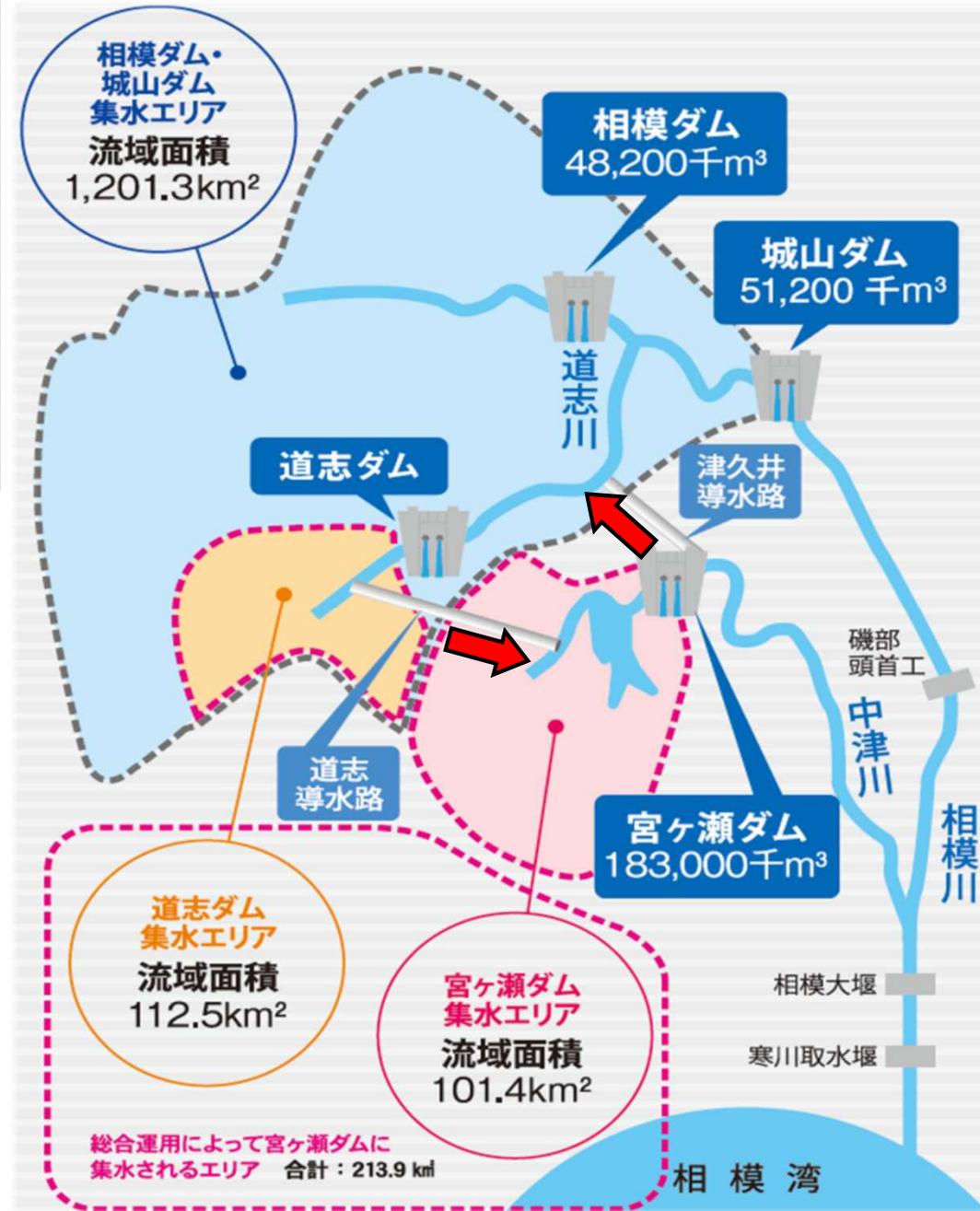


城山ダム上流域と宮ヶ瀬ダムを2本の導水路で接続することにより、宮ヶ瀬ダムへ水を導水するとともに、宮ヶ瀬ダムに貯めた水を城山ダム上流域に送ることで効率的な水運用が可能となります。

津久井導水路



道志導水路



相模川水系のダム流域の模式図

水の総合運用のしくみ～相模川水系の利水ネットワーク～

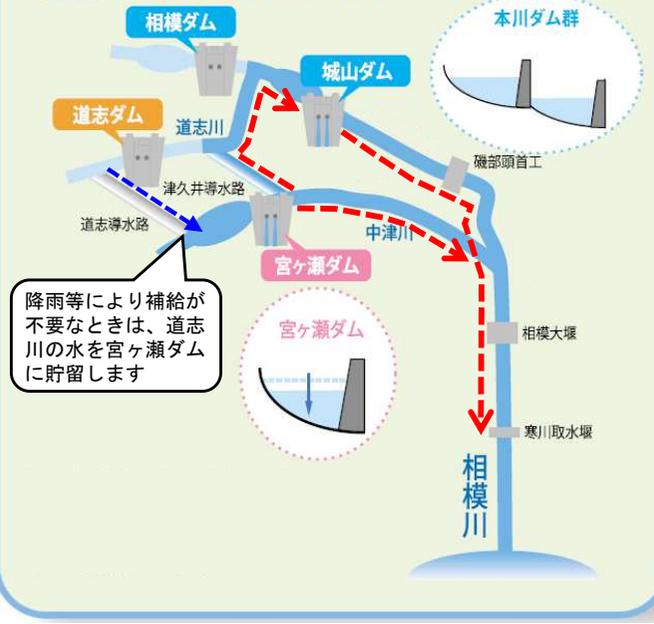
少雨により相模川の河川の水量が減少し、河川の環境や取水などに支障をきたす可能性がある場合、①最初に相模川本川ダム群（相模ダム・城山ダム）から補給を行い、②次に宮ヶ瀬ダムが単独で補給を行います。少雨が長期化した場合には、③各ダムの貯水容量に応じて、相模川へダムに貯めた水の補給を行います。相模川本川ダム群（相模ダム・城山ダム）と宮ヶ瀬ダムとで水の総合運用を行うことにより、相模川における河川の水量の安定を図っています。

1 まずは本川ダム群から補給



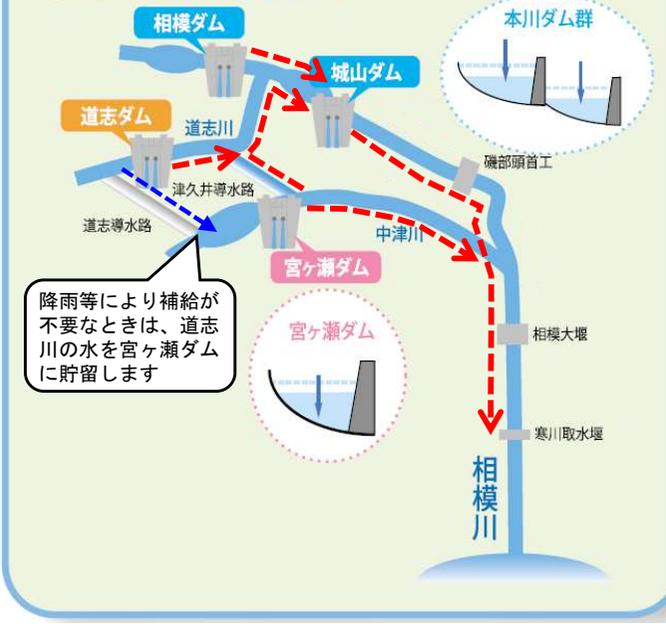
少雨により相模川の河川の水量が減少すると、流域面積が宮ヶ瀬ダムの約1.2倍あり、貯水量が回復しやすい本川ダム群から最初に補給を行います。

2 次に宮ヶ瀬ダムから城山ダムを経由して補給



本川ダム群の貯水量が低下したら、宮ヶ瀬ダム単独で、津久井導水路を使用した城山ダム経由の補給を行うとともに、宮ヶ瀬ダム下流の中津川を経由した補給を行います。

3 さらに各ダムの容量に応じて補給



少雨が長期化して本川ダム群と宮ヶ瀬ダムの貯水量が低下した場合は、各ダムの容量に応じた補給を行います。